

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1173700236		
法人名	株式会社ユニマツトそよ風		
事業所名	行田ケアセンターそよ風		
所在地	埼玉県行田市天満8-29		
自己評価作成日	平成26年5月17日(土)	評価結果市町村受理日	平成26年7月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/11/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/11/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	平成26年6月17日(火)		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

御利用者様一人一人のニーズと意思を尊重し、それぞれの個性や特徴を把握し、その方らしい生活を提供出来るよう支援しています。共同生活の場の中でも、一人一人のペースに合わせた環境作りに努め、今までの趣味や生活を大切に、張りのある生活を感じて頂けるように支援しています。御家族様には、密に連絡を取り職員が誠意のあるケアや対応をすることで、御利用者様・御家族様双方から信頼して頂けるような関係作りに努めています。当施設では、目の前に大きな公園があることから立地条件に恵まれており、日常生活においては、天候・気候の良い日には散歩やお花見見学等をレクリエーションの時間に行っております。また、近くのスーパーや商店へ買い物に出かけたりと、日々の気分転換を図っております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

・利用者主体のケアの実践に加えて、家族との関わりも重視され、運営推進会議や家族会を事業所のイベントに合わせて開催することで、参加者を増やし、多くの意見・提案が得られている。職員は利用者や職員同士でも思いやりの気持ちで接することで、お互いの連携が図られ、サービスの向上に活かされている。  
 ・ご家族からのアンケートでも、「職員の方々の気持ちが落ち着いていて、安心しておまかせできています」、「本人の気持ちをよく考え、話をよく聞いていただいており有難く思っています」などのコメントが寄せられ、事業所全体のサービスに家族の高い関心と評価が得られている。  
 ・目標達成計画の達成状況については、運営推進会議の定期的な開催に取り組み、年間の計画や内容を参加者に事前に伝えたり、イベントの開催に合わせるなどの工夫を図り、開催することができたこと、さらに、地域との防災対策での協力体制作りを取り上げ、事業所を地域の一時避難所として協力する取り組みが行われたことから、目標が達成されている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝職員で会社の基本理念等を読み上げ、職員同士で理念を共有している。御利用者様一人一人の尊厳を尊重している。	理念に沿い、利用者が「家庭の延長」として、明るい笑顔と落ち着きのある生活への支援に努められている。家族との密な連絡や職員間の話し合いにより、理念の共有が図られ、ケアプランにも考え方が反映されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会夏祭りに参加をしたり、保育園の運動会見学に招待され、外出行事として参加する機会がある。	地域とは散歩時に挨拶や世間話を通して交流され、町内の催しへの参加や合同での避難訓練などが実施されている。運営推進会議にも地域住民に参加いただき、意見や提案を受け、サービスの向上に反映されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的な家族会や二ヶ月に一回の運営推進会議等で事業所の実践を伝え、介護に対する話し合いや御指摘を頂き、運営に反映させている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回必ず運営推進会議を開催し、地域の方々の意見を聞き、サービスに反映するように心掛けている。	運営推進会議の実施予定や内容を事前に知らせることで、定期的な開催が可能になり、地域住民や地域包括支援センターの参加が得られている。また、自治会長からは防災対策についてのアドバイスを受け、改善につなげられている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて市役所に電話をかけアドバイスを受けたりして連携が取れるように努めている。	電話や訪問時には、利用者についての相談などが行われている。また、市担当者には運営推進会議にも参加いただき、様々な面からの情報提供とアドバイスをいただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員同士で身体拘束をしないように声掛けを行い、月一回のユニット会議で常に身体拘束をしない方法を話し合い、取り組んでいる。	身体拘束防止委員会を通して、勉強会が行われ、職員それぞれが参加した研修内容を発表し、お互いの知識のレベルアップが図られている。また、接遇・マナーの面では、言葉使いに特に気を配り、「ダメ」はその場で注意するよう努められている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所でマニュアルがあり、月一回の会議内で話し合いを行い、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方は現在はいないが、利用されている御家族様がいらした場合には、制度が職員全員で理解出来るように会議等で勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に細かな説明を行い、利用者様・御家族様双方が納得されるまで説明を行っている。入院等が必要になった場合には、その時点で再度説明を行い了解を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来られた御家族様にはその時点でお聞きし、中々来所出来ない御家族様には定期的に電話をし意見や要望を聞くようにしている。運営推進会議には家族様と地域の方々とのお話し合いが行われている。	利用者とは普段の会話の中で「食べたいもの」や「やりたいこと」を聴き、実現に向けて取り組まれている。家族とは日頃の面会時のほか、行事に合わせて家族会議を行い、様々な質問や相談を受け、サービスの向上に反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議にて職員の意見を聞き、リーダー会議・センター内の全体会議にて発表して、反映できるようにしている。	職員間では業務関連事項を中心に、業務の流れや見守りの目を絶やさないとを目的に、夜間の業務分担の見直しなどが話し合われている。伝達・連絡ノートが活用され、職員間での情報の共有と周知に努められている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員全員がやりがいを持っていけるように意見を聞き反映させるように努力している。夜勤2人対応の為、日中に職員が不足しがちだが、声を掛け合い働いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が個々にスキルアップが出来るような環境作りを行い、外部研修を積極的に参加できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地位の勉強会に参加をする機会を作り、同業者との交流を図り、意見交換を行いサービスの質を向上させていく取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様の声なき声に耳を傾け、本人様が何を望んでいるのかを感じ取り、安心して生活していけるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	常に御家族様と連絡を取り合い意見を取り入れやすい環境作りを行い、御家族様との信頼関係を気付けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様の状態に合わせ、新たなサービスが必要になった場合には、御家族様と話し合いを行い、その都度他のサービス利用も含めた対応を取れるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様とコミュニケーションを取りながら本人様が出来ることを見極めていき、出来ることを進んで行えるように声掛けを行い、よい関係作りを築いていけるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様には面会に来られる機会を作って頂き、いつも近くに御家族様が居るという事を感じ取って頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時々、本人様が住まわれていた時の近所の方が、来所されたりしているが、本人様が中々理解出来ない場合も稀にある。	デイサービス利用から入居された利用者には、デイサービスに来られる知人・友人との交流を途切れないう支援に努められている。また、昔馴染みの「フライ屋」に買い物に出かけたり、仕事仲間の「飲み会」の誘いなどもあり、馴染みの継続への取り組みが行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の間に職員が入ることによって、一人一人が孤立せずに関わりが持てるように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に入所された方は面会に行くこともあり、入院された方には御家族様と連絡を取り合い、体調が良ければ面会に行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様が何をしたいかを感じ取り、本人様の希望を取り入れている。困難な場合には、本人様の立場に立ってその時に必要なケアの方法を検討している。	利用者に合わせて、「～しますよ」、「これがごはんですよ」など、丁寧な声かけにより、表情を読み取り、思いや意向の把握に努められている。テレビの旅番組やニュースなどをきっかけにして会話が弾むこともあり、好きなことや郷土のことなどを知る機会になっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所する前に面接を行い、生活歴等の情報収集を行い、入居時にもれがないように記録を行う様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員都合にならず、本人様が何をしたいかをよく見極め、得意な事は伸ばしていけるように日々の過ごし方を考えている。個別支援も取り入れている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様及び家族様の要望を聞き介護計画に取り入れている。内容を職員同士で話し合い、本人様によりよいケアが受けられるように努めている。場合によっては、医療関係者からのアイデアも組み込んでいる。	サービス担当者会議を中心にケアプランへの意見や要望が集約され、具体的な目標や内容を盛り込んだ介護計画が作成されている。サービス内容にナシリングを行い、それに基づいて支援経過を記録されるなどケアの統一が図られている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に毎月記入し、本人様の日々の状態を職員間で確認し、日々の生活の中での事をよく見て、介護計画を見直すことを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御家族様が来所時に外出したいと言われれば、外出して頂き、一階デイサービス内でボランティアが来られている時は、参加して頂き他のサービスにて楽しめる時間を確保できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会・包括支援センター・市役所等と連携を取り合い地域の中で生活出来るように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際にも病院受診の話し合いを行っており、希望に沿った対応が出来るようにしている。適切な医療が受けられるように往診等も検討し、家族様が対応出来ない場合には職員が対応もしている。	日常的には協力医やデイサービスの看護師による医療支援が行われている。かかりつけ医への受診には家族だけでなく、職員が同行することで、利用者についての詳細な情報の共有が図られ、適切な医療が受けられるよう取り組まれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本人様の体調や表情を見たりし、場合によっては一階デイサービス看護婦に相談し、指示を仰ぎ通院を行ったりしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃からのかかりつけ医を決めて頂き、受診を通して入院しても治療が受けられる様に情報交換を行っている。入院した場合であっても面会に行ったり、本人様の状態を常に確認している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に終末期の説明を行っている。現在は看取り介護は行っていないが、各職員が介護で出来ること・出来ないことを把握しケアを行えるようにしている。また、終末期に向けた講習等にも今後各職員が参加出来るようにしておく。	重度化や終末期への対応については、入居時だけでなく、いろいろな機会ごとに、利用者や家族への説明がなされている。「急変時にはどうするのか」、「いつまで入居できるか」など、具体的な内容について話し合われ、方針の共有と不安の解消に努められている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急対応の仕方の研修会に参加し、いざという時に対処出来るように訓練している。事業所内でもマニュアルがあり、緊急時に対応出来るように周知徹底している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間は一番家が近い職員から連絡が取れるように緊急連絡網を作成しており、年二回の消防署員立会のもと訓練を行うことで、緊急時に慌てないで行動出来るようにしている。	消防署や運営推進会議からのアドバイスを取り入れ、2階からの避難などの実践的な訓練を行うなど、質の高い災害対策が取られている。地域より事業所を災害発生時の一時避難所にする提案を受け、協力体制作りにも努められている。	避難訓練には地域住民の参加もあり、災害時の一時避難所としての役割を担っていることから、自治会などと話し合い、お互いができる具体的な役割を決め、対策の強化を図られることに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の自尊心を傷つけないように声掛けを行っている。人格を尊重し、プライドを傷つけないようにコミュニケーションを図っている。	虐待や拘束に繋がる「抑制する声かけ」には特に注意し、利用者の尊厳を傷つけないよう努められている。見守りの必要から居間で就寝される利用者がおられるが、パーテーションを使用し、プライバシーの確保にも配慮がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が決め付けるのではなく、本人様が自己決定出来るような話し掛けを行い、希望が伝わりやすい関係作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人様に職員が合わせていき、本人様が何をして過ごしたいかを見極め支援出来るように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	各利用者様の好みに合わせて散髪を行っている。身だしなみに気を配り、行事等の時には、化粧を行ったりおしゃれを楽しんで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	セレクトメニューがあり、各利用者様に決めて頂き好きなメニューを召し上がっていただくようにしている。テーブル拭き、下膳等が出来る方は行って頂き、食事の準備や片付けに参加して頂いている。	好きなものをおいしく食べていただくことに努められ、飲み物などの希望を聴く対応がなされている。手の消毒や食器拭きなど、利用者にも能力に合わせて準備や後片づけに参加いただき、皆で食事を楽しめるよう支援に取り組まれている。	セレクトメニューやピクニック会の弁当など日常の食事への工夫が図られており、運営推進会議で試食会を実施したり、食事の様子を写真に収めて家族に伝えるなど、家族の安心感が得られる取り組みに期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量が少なくなりがちな方には、声掛けを行い必要に応じて好みの飲み物を購入し提供している。食事量は個々に確認し、好みの物を提供しており、野菜等残しやすい物は声掛けし、食べて頂くよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で口腔ケアが行える方には見守りし、必要に応じて介助を行い、口腔内を清潔に保てるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自力排泄を行える方には、トイレへ行って頂き排泄パターンをインアウト表にて確認している。自分でトイレへ行けない方については声掛けを行い、トイレ誘導し、排泄の自立に向けた支援をしている。	利用者一人ひとりの水分補給や排尿・排便の状況を事業所独自の「インアウト表」に記載し、パターンを確認することで、排泄の自立支援が行われている。足の不自由な利用者でも、手引きでトイレ誘導をするなど、残存機能の維持にも努められている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を好まない利用者様には声掛け等なるべく野菜を食べて頂いている。体操等を毎日行い参加を促し、便秘改善に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時に声掛けを行い無理強いせずに入浴して頂けるように努めている。強い拒否が見られる場合には、曜日・時間を変え、気持ちよく入浴して頂けるように支援している。	入浴前のバイタルチェックや浴室内温度管理など利用者の健康への配慮がなされ、利用者の意志を尊重しながら誘導し、入浴いただいている。入浴中には家族のことや昔話を伺い、時間にとらわれることなくゆっくり入浴ができるよう支援がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中体を動かして頂き、生活リズムを整えるように支援している。1～2時間休養する時間を作り、本人様の希望を聞き夜間に良眠してもらうように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬の内容を処方箋で確認し、きちんと服薬出来ているか毎食後に確認している。薬が変更になった場合職員で周知徹底し、表情・皮膚の状態を確認し、必要に応じて医師に伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事は進んで行えるようにしており、無理せず生活して頂いている。時々気分転換出来るようドライブ等を行い楽しんで生活出来るように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は日光浴・散歩等を行い、施設の外へ出られる機会を作っている。金銭が発生する場合は、家族様に了解頂き外出を行い、外食等で楽しんで頂く。	向かいの水上公園への散歩や「びっくり雑まつり」の見学などは恒例となっており、利用者の体調や意志を尊重した外出支援が行われている。また、利用者全員で弁当持参のピクニック会を催すなど、外に出ることで、周囲の恵まれた環境を楽しんでいただいている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出される際には職員が同行し、お金を本人様に渡し、本人様が金銭のやり取りが行えるように見守り行う。お店の方に説明し行うこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員が番号を押し、本人様自ら電話することは良くあり、希望に沿って家族様と連絡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間内では常に気を配り、植物等を置いて和める空間作りに努めている。定期的に温度調整をし、天気の良い日は換気を行い、空気の入替わりを行っている。また、壁画で季節感を感じて頂く。	利用者それぞれが思い思いにくつろぐ姿が見られ、広い廊下でリハビリに励まれる利用者もおられる。また、みんなで集まり、作業レクリエーションでカレンダーや飾り物を作り掲載するなど、利用者が居心地良く過ごされるよう、様々な工夫が施されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士で談笑が出来るように席を作り、自由に移動して頂けるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様と御家族様で好みの物を持参して頂いている。自宅で使用していた物を持ち込まれ、本人様が気分よく過ごせるようになっている。	職場から退職記念にいただいたロッキングチェアや足踏みマッサージ機、ラジカセなどが持ち込まれ、生活習慣に合わせた居室作りへの支援が行われている。掃除機かけやモップかけなどを職員と一緒に行うなど、環境・衛生面への配慮もなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部を分かりやすくしており、利用者様の動きを見て、職員が支援を行う。トイレ・脱衣所等分かりづらい場所は誘導を行い、本人様に理解して頂けるように工夫している。		

(別紙4(2))

## 目標達成計画

事業所名:行田ケアセンターそよ風

作成日:平成 26年 7月 19日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害時に、近隣の方々との協力体制が取れるように、具体的な話し合いをしていく必要がある。近隣の方々の連絡網は、以前貰ってはいるが、実際の動き等の具体的な話し合いが出来ていない。	2ヶ月に1回の運営推進会議等で、民生委員、自治会長・市役所の方々と、実際に災害が起こった場合の近隣の方々との連絡体制や動きについて、密に話し合いを行っていく。	前回の運営推進会議(6月19日木曜日)は、GH・DS合同の自衛消防訓練を行い、運営推進会議と並行開催実施した。地域の方々に総合訓練の様態を見て頂き、意見や指摘を頂く事が出来た。また、災害時の地域との関わりについての話し合いを行った。	6ヶ月
2	40	家族様の関心、第1位が食事ということもあり、センターの食事をもっと御家族様に知って頂く機会を作りアピールしていく。	御家族様を招待した昼食会を、今後計画し実施していく。センターの食事についてアンケートを記入して頂く。御家族様からの目線での意見や指摘を頂き、より良い食事が提供出来るように努めていく。	納涼祭や忘年会の様な行事食ではなく、普段日常で利用者様が食べている食事をもっと家族様に知って頂き、意見や指摘等の感想を頂き、食事の質の向上を図る。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。